

中央アルプス全山縦走報告

2010年8月30日(水) - 9月3日(金)

M4 只左一也

8月30日：高尾→(JR)→伊那市(仮眠)

8月31日：伊那市→(タクシー)→桂木場→木曾駒ヶ岳

9月1日：木曾駒ヶ岳→宝剣岳→空木岳→摺鉢窪避難小屋

9月2日：避難小屋→南駒ヶ岳→越百山→安平路山→安平路避難小屋

9月3日：避難小屋→摺古木山→登山口→(車道)→幸助バス停→(バス)→南木曾駅→(JR)→高尾

2日目 (9月1日(水))

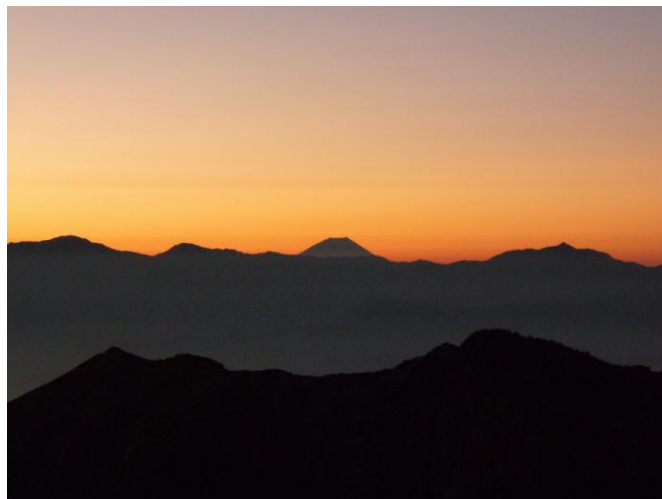
起床	03:00
頂上山荘	04:40 発
木曾駒ヶ岳	04:50 着 05:35 発
頂上山荘	05:45 着 05:55 発
宝剣岳	06:25 着 06:30 発
極楽平	07:00 着/発
檜尾岳	09:20 着 09:25 発
熊沢岳	10:35 着 10:50 発
東川岳	11:55 着 12:00 発
木曾殿山荘	12:25 着 12:40 発
木曾義仲の力水	12:45 着 12:50 発
木曾殿山荘	13:00 着 13:10 発
空木岳	14:30 着 14:45 発
赤柳岳	15:50 着 16:35 発
摺鉢窪避難小屋	17:05 着 (小屋泊)
(歩行時間：約 9 時間)	

3時起床。テントを出ると、満天の星である。きっと素晴らしい朝焼けが見られるだろうと、わくわくしながら朝食を済ませ、テントを片づけ、ザックに荷物を詰めて出発の準備をしてから、カメラだけを持って、三度目の木曾駒ヶ岳の山頂を目指す。東の空には、甲斐駒ヶ岳のシルエットが浮かんでいる。山頂に着くと、大展望が待っていた。

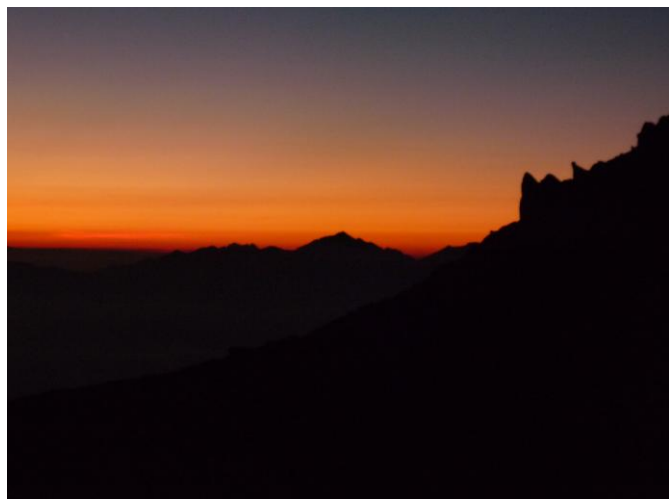
東には伊那谷をはさんで南アルプス全山が屏風のように連なっている。鋸岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈ガ岳、北岳、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川岳、赤石岳、聖岳、光岳、池口岳と、一つ一つが手に取るようにはっきりと分かる。塩見岳の左手には、富士山も頭を出している。南アルプスの左手には八ヶ岳全山、そして北には槍穂高連峰、乗鞍岳。西には雲海の上に島のように浮かぶ御嶽山。南は、これから進む宝剣岳、空木岳、南駒ヶ岳、安平路山の中央アルプスの稜線、そして彼方に恵那山。

大展望を楽しみ、日の出を待っていると、西側の頂上木曾小屋宿泊していた人たち 10 人ほどが登ってきた。昨日はガラガラだったようである。皆さんの話だと、宝剣岳の麓、宝剣山荘は、高校生 70 名

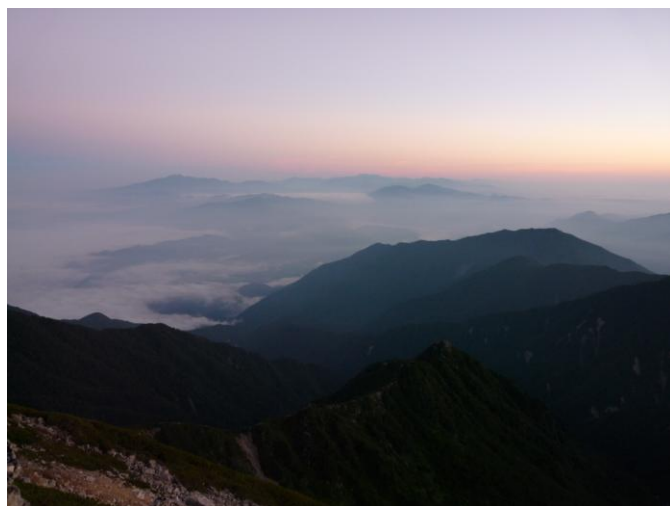
の団体が混雑していたようで、駒ヶ岳と宝剣岳の間にある中ノ岳のピークの上には高校生たちがはしゃいでいる様子が見えた。5 時 15 分、朝日が姿を現すと、歓声が起こる。高齢者の団体が、真っ黒に日焼けした私が山に詳しいと思ったようで、周囲に見える山の名前を聞いて来たので、一つ一つ説明をしてあげる。景色をずっと楽しんでいたかったが、この日は長い行程なので、名残は尽きないが、テン場に引き返し、ザックを担いで進むことにした。



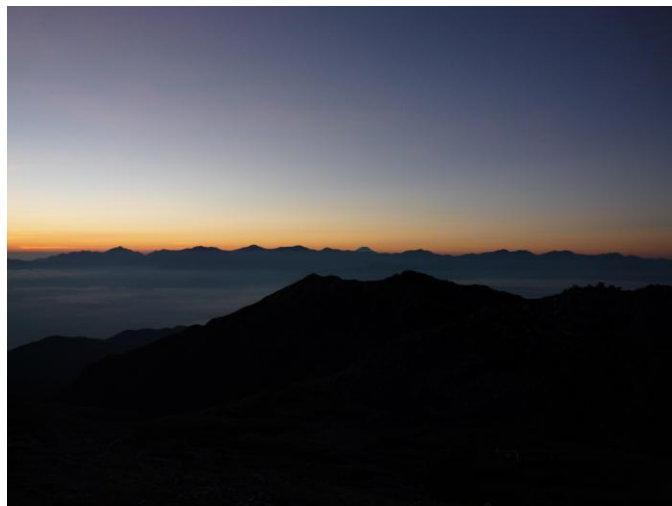
富士山(右端は塩見岳、左端は間ノ岳)



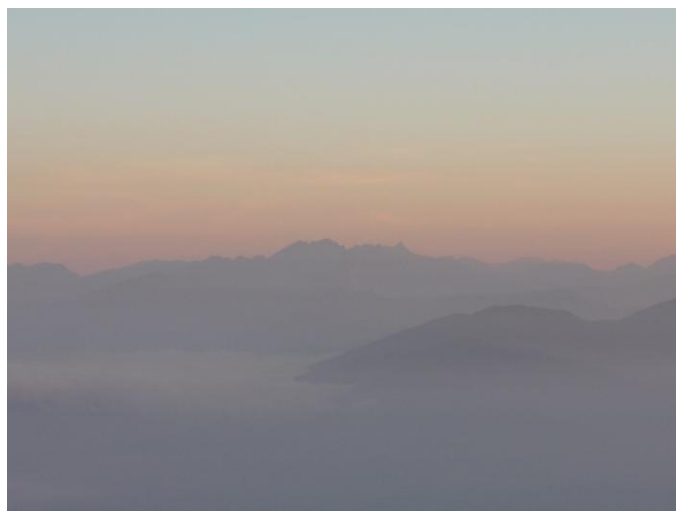
甲斐駒ヶ岳



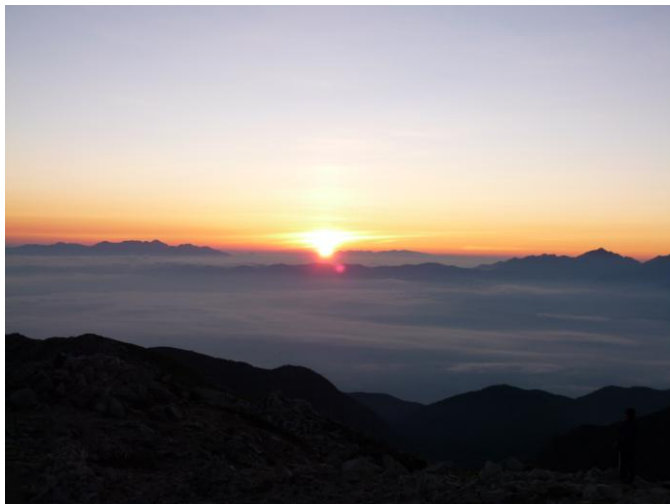
北の眺め(左は乗鞍岳、中央は槍穂高連峰)



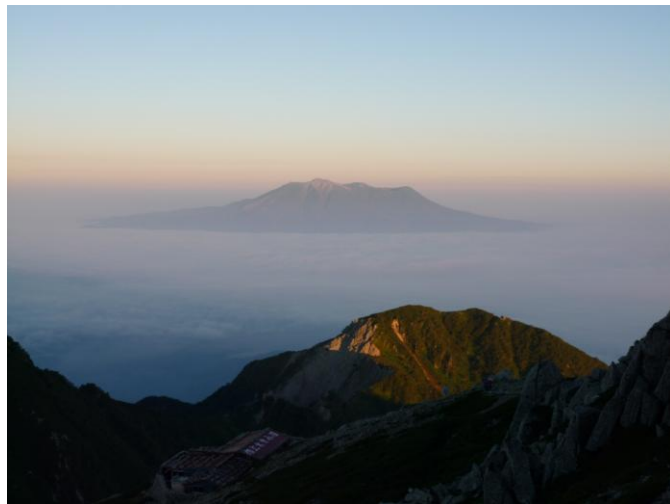
南アルプス(甲斐駒ヶ岳～聖岳)



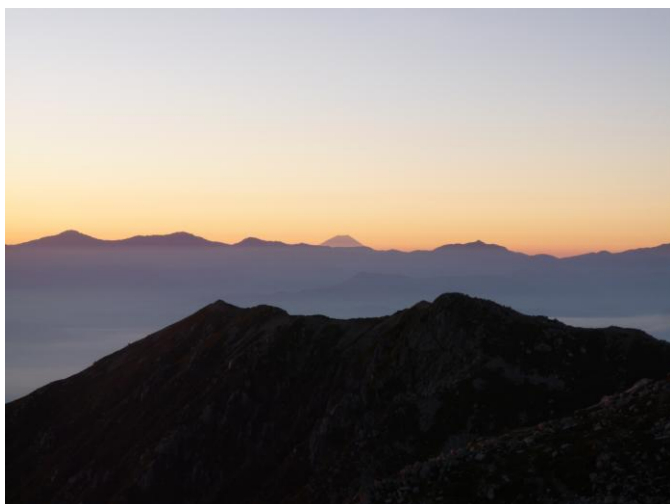
槍穂高遠望



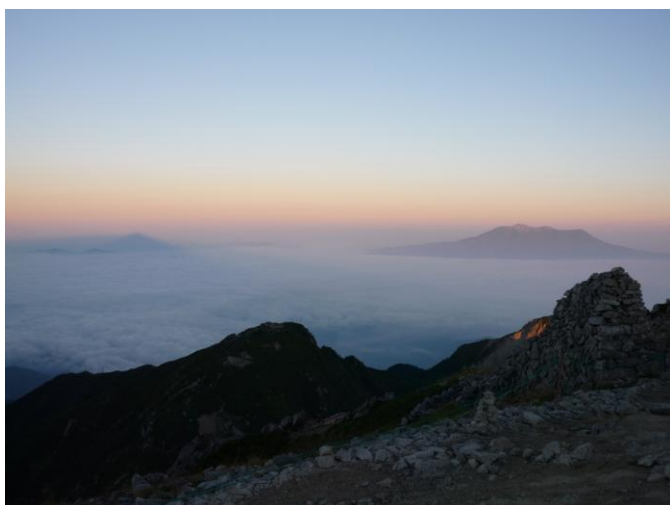
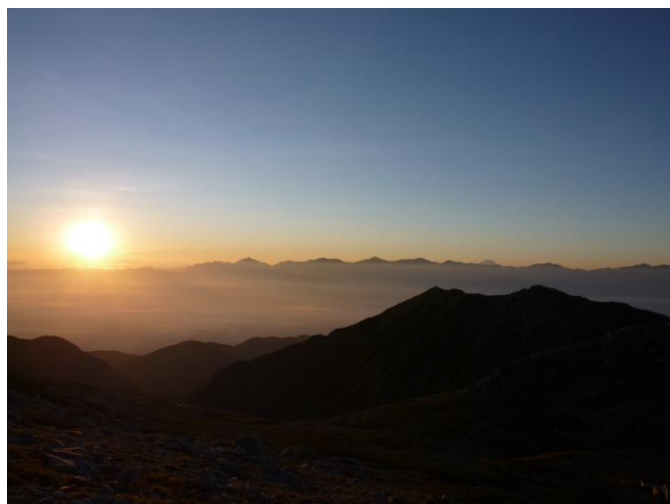
御来光（左は八ヶ岳、右は甲斐駒ヶ岳）



雲海に浮かぶ御嶽山



富士山と白峰三山・塩見岳。手前は伊那前岳。



御嶽山と「影」木曾駒ヶ岳（左端）



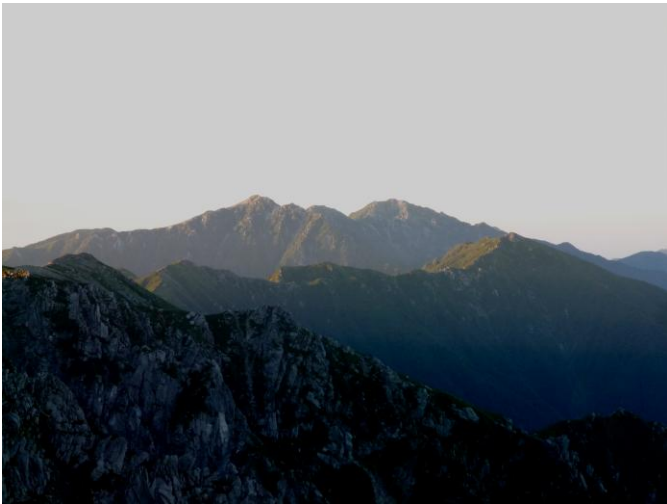
木曾駒ヶ岳山頂



南の眺め。左から、宝剣岳、空木岳と南駒ヶ岳、三ノ沢岳



三ノ沢岳と恵那山(中央遠方)



空木岳(中央左)・南駒ヶ岳(中央右)遠望

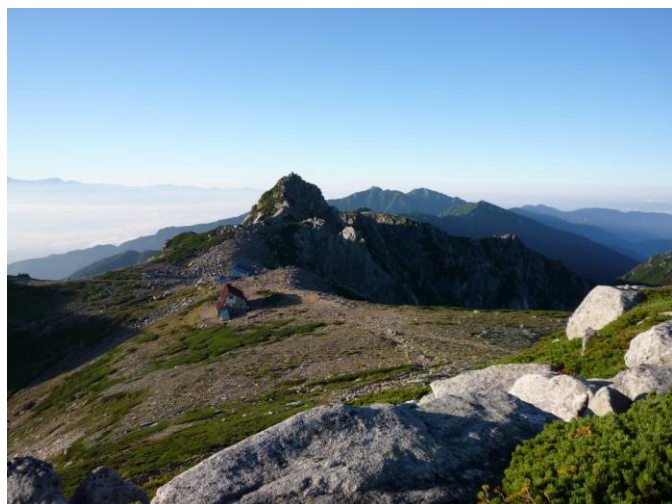


宝剣岳

テン場裏の緩やかな斜面を 10 分も登ると中ノ岳のピークに。目の前に宝剣岳が大きく聳える。わずかに下って 2 軒の山小屋の脇を過ぎると、すぐに宝剣岳の登りになる。ここは中央アルプスでは一番険しい道だが、よく整備されていて、穂高周辺を歩き慣れていれば全然問題ない道である。ただ、すぐそばまでロープウェイで登って来られるので、時期によっては大変混雑するようである。この日は、人は少なく、高齢者を数人追い越して、あっという間に山頂に。狭いピークでは 3 人のおじいさんがのんびり休んでいて、ゆっくりする場所もなかったので、すぐに出発することにした。三ノ沢岳の分岐までは、鎖場の連続する岩場が続くが、特に問題になるような場所もない。白い花崗岩の岩場で、庭園のような趣があって大変美しい景色である。右手には南アルプス全山、左手には御嶽山、正面には空木岳と南駒ヶ岳と、素晴らしい眺めを楽しみながら進む。正面右手の三ノ沢岳が何ととっても素晴らしい。人も全くいなかったのも、宝剣岳ピークから 20 分で分岐に着いてしまった(山と高原地図では 50 分)。振り返ると、宝剣岳がすごい。三ノ沢岳を往復したいという激しい誘惑に駆られたが、どう計算しても時間的に無理なので、ここは我慢。



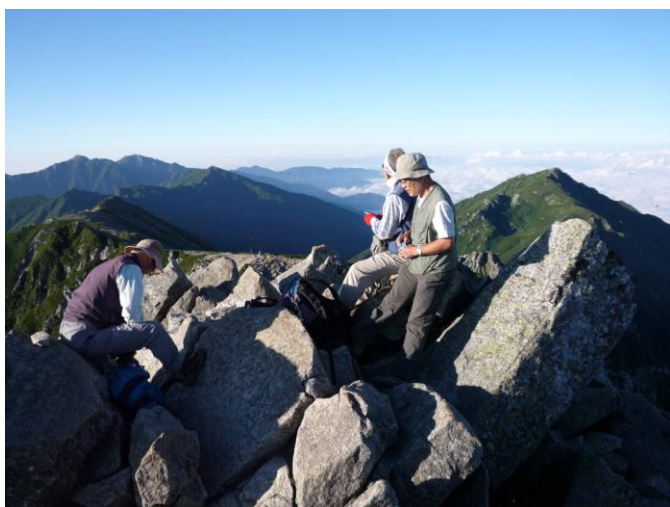
テン場に引き返す



中ノ沢岳から南を眺める



三ノ沢岳



宝剣岳山頂は狭い



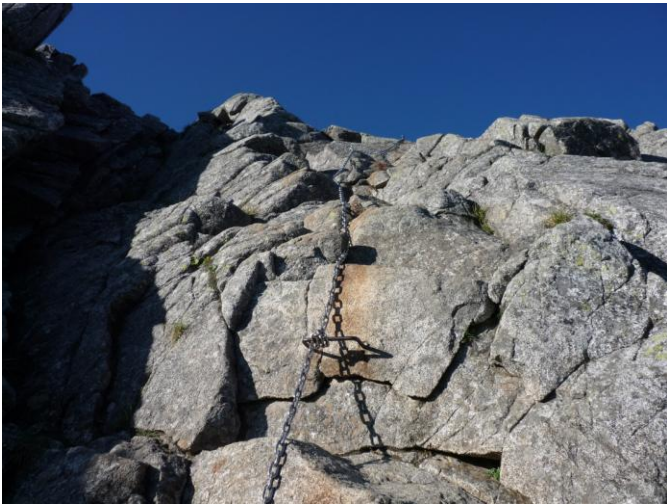
千畳敷カール



三ノ沢岳への分岐まで険しい岩場が続く



宝剣岳を振り返る



鎖場が続く



伊那前岳



三ノ沢岳への分岐

この先は、白砂とハイマツの穏やかな稜線となる。左手に千畳敷カールを見下ろしながら進むと、10分ほどで、ロープウェイ駅へ下る道との分岐の極楽平となる。まだ大して歩いていないが、景色の素晴らしさについ腰を下ろしたくなり、極楽平の少し先でいい場所があったので、ザックを下ろして少しのんびりする。周りはハイマツの中に巨岩が点在する庭園。南アルプスの展望の素晴らしいこともさることながら、何ととっても南の檜尾岳～熊沢岳～空木岳～南駒ヶ岳へと続く中央アルプス核心部の稜線が見事である。中央アルプスの景色の美しさは想像をはるかに超えていた。

このあたりから、ウスユキソウの仲間で中央アルプス特産のコマウスユキソウを頻繁に見かけるようになる。かなり小ぶりのウスユキソウである。今回の山行のお目当ての一つだったので、嬉しかった。



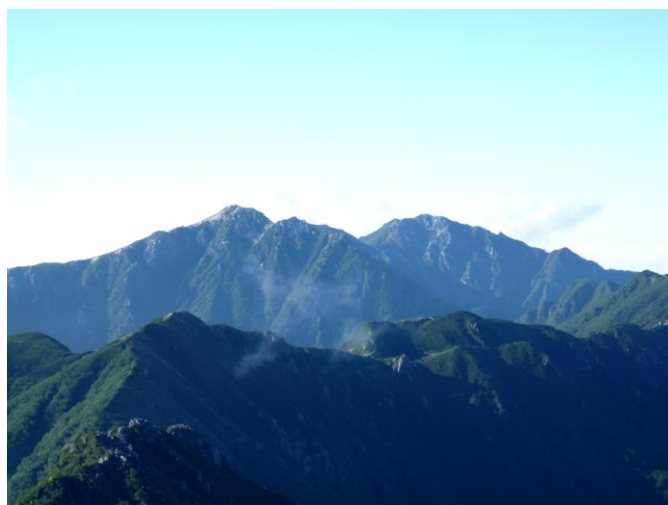
ハイマツ越しに見る三ノ沢岳



空木岳へ続く稜線



後を振り返る。中央が宝剣岳、その左が木曾駒ヶ岳。



左が空木岳、右が南駒ヶ岳



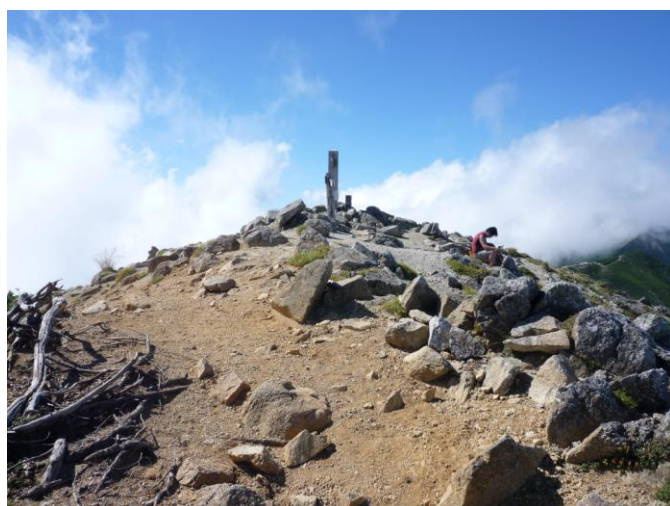
コマウスユキソウ



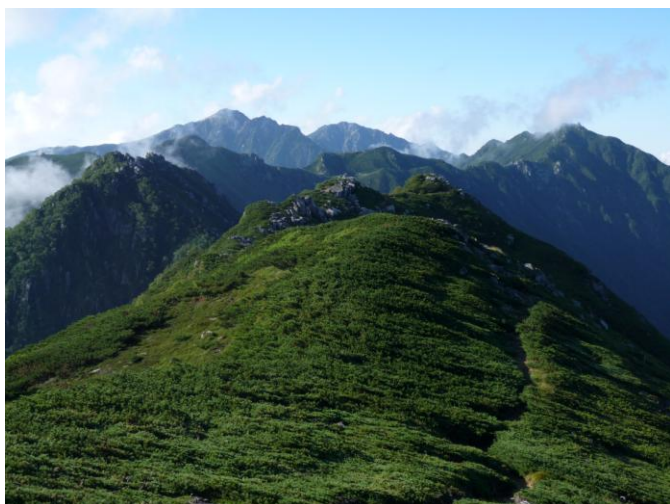
稜線にガスがかかり始めた

次第に起伏が大きくなり、小さなアップダウンをいくつか越えているうちに雲が下から上がってきて、檜尾岳に到着するころまでには空木岳は雲に隠れてしまった。北海道、北アルプス縦走（実はその後、家族で奥穂高・ジャンダルム・前穂高にも行ったので…）で体の芯から疲れ切っていたようで、ペースは全く上がらず、山と高原地図の時間どおりにしか進めなかった。しかし、この日は前日よりも天気が安定しているようで、夕立の心配はなさそうだったので、景色を楽しみながらのんびり行くことにする。

花崗岩の巨岩の並ぶ熊沢岳を過ぎ、正午前、ようやく東川岳に到着。



檜尾岳山頂(2728m)



山頂から 10 分ほどの稜線上に避難小屋がある



東川岳山頂(2671)



熊沢岳山頂(2778m)



東川岳から見た空木岳の登り(山頂はガスの中)



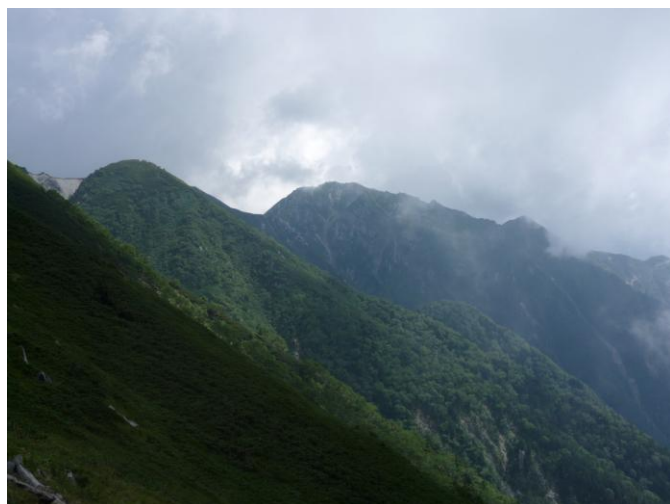
ここから、木曾義仲が越えたと言われる「木曾殿越」のコルまで急な下りとなる。膝が笑いそうな 20 分ほど急坂を下り峠の木曾殿山荘に到着。ここから西へ 10 分ほど下ると、「木曾義仲の力水」というすごい名前の水場がある。この日は、宿泊予定地の摺鉢窪避難小屋も、そこまでの道にも水場は全くないので、ここで必要な水を汲んでいかなければならなかった。山小屋の前にザックを置き、水筒だけ持って水場に向かう。水は冷たくて旨かった。ここで 5 L ほど水を汲み、山小屋に引き返す。時々雲の間から南駒ヶ岳が顔を見せる。



東川岳から急斜面を下ると「木曾殿越」のコル



冷たくて旨い水だった



南駒ヶ岳



小屋から西へ10分弱下ると「木曾義仲の力水」の水場

この峠から、空木岳までは標高差 400mの急登である。登って行くと花崗岩の巨岩が多くなり、仙郷のような景色になる。空木岳第一ピークを仰ぎながら息を切らして登って行く。ピークを巻き、巨岩の間を縫うように進んでいくとやがて傾斜が緩くなり、空木岳山頂に到着。百名山というのに、人影が全く無く、静かなものである。少しのんびりして景色を楽しみ、出発。相変わらず雲が多いが、晴れ間から射す日差しが強い。



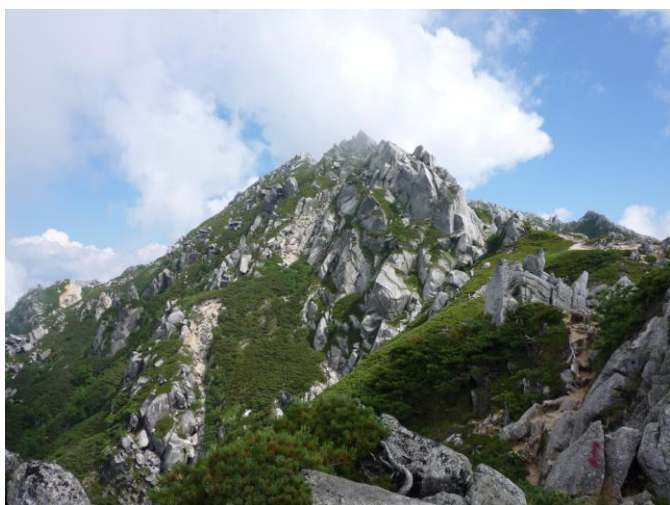
空木岳の急登。正面は第一ピーク。



木曾殿越を振り返る



南駒ヶ岳



空木岳第一ピーク



空木岳山頂(2864m)



百名山というのに、人影が全くない



第一ピークを振り返る



左手に伊那谷を見下ろす

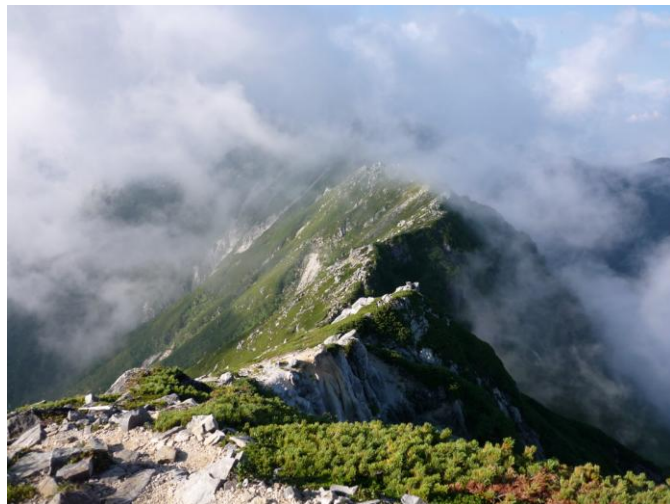
空木岳から南駒ヶ岳への稜線も大変美しい。のんびり歩いていたら、赤檜岳に着いた時には4時前になっていた。左手には、摺鉢窪カールが広がり、この日の目的地の摺鉢窪避難小屋が間近に見える。景色もよく、腰を下ろすのにいい場所だったので、ここで気象情報を聞いて天気図をつけた。翌日も天気は良さそうである。ラジオを聴いているうちに、ガスに覆われていた空木岳も南駒ヶ岳も姿を現した。



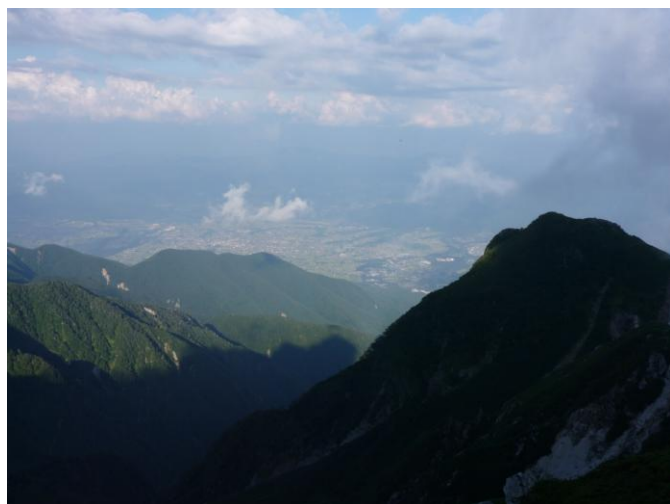
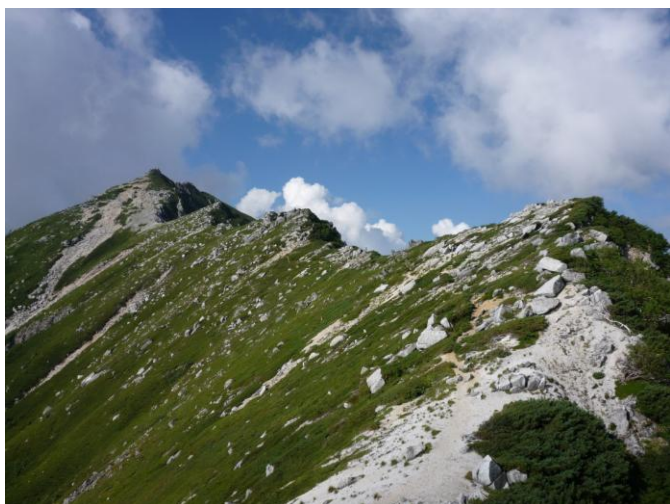
右手は木曾谷



南駒ヶ岳まで美しい稜線が続く



赤檜岳から北の眺め。空木岳はガスの中。



伊那谷。下界はきっとひどく暑いのだろう。



赤檜岳山頂(2798m)。ここで天気図をつけた。



この日の宿泊予定地、摺鉢窪避難小屋を見下ろす



ガスが消えて空木岳が姿を現した



摺鉢窪カール

赤檜岳から下っていると、向こうの南駒ヶ岳から3人、下って来るのが見えた。赤檜岳と南駒ヶ岳の間の稜線の最低地点から摺鉢窪カールに下りる道がついている。これが大変歩きにくいザレた道で、何度もすべってひっくり返ってしまった。途中で3人に挨拶してから追い越し、午後5時、ようやく避難小屋に到着。広くてきれいな避難小屋だった。この日は、私と、その3人（中年夫婦と、単独行の中年男性）だけだった。3人とも、西側の登山口から越百山経由で上がってきて、翌日は空木岳経由で下山するとのことだった。

小屋の中が暑かったので、戸をあけていたらブヨや蚊がいっぱい入って来たので、私が持ってきた蚊取り線香をたくさん炊いたら、虫が全くいなくなり、蚊取り線香の効き目に感心してしまった。みんなで雑談しながら食事の支度をして済ませ、寝袋に潜り込んだ。疲れていたもので、熟睡だった。



南駒ヶ岳



ここからカールに下りる



小屋の中

